

シネマ

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là

Ciné-là

2003

12

No.89

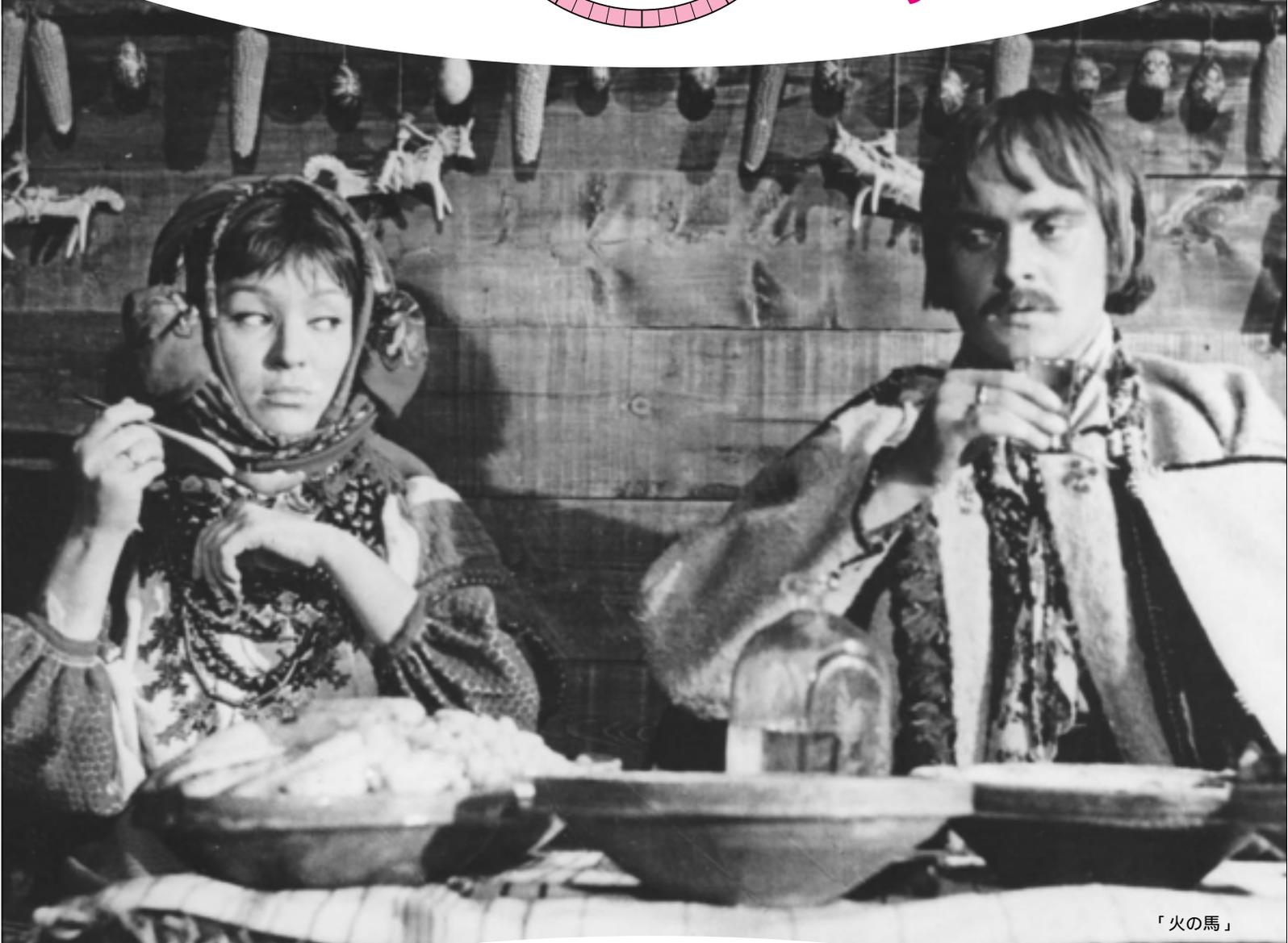
シネマニュース

特別企画

・ロシア・ソビエト映画特集
エイゼンシュテインからソクーロフまで

収蔵映画特集

・祭りのドキュメンタリー



「火の馬」

ロシア・ソビエト映画特集 エイゼンシュテインからソクーロフまで

今年がソビエト連邦の「1917年11月7日」革命100周年にあたります。これを機にシネマでは映画黎明期に世界映画史に残る金字塔を打ち立てたエイゼンシュテインを初め数々の巨匠たちから、現代ロシアにおけるエイゼンシュテインの後継者たるソクーロフまで、ロシアの大地のこころ豊かな映画史を振り返ります。

祭りのドキュメンタリー

今回上映する作品は日本各地の祭りを記録したドキュメンタリーの特集です。「冬の夜の神々の宴ー遠山の霜月祭」、「ゆきははなであるー新野の雪まつり」、「生者と死者のかよい路」や地元太宰府天満宮の「鬼すべ」など6作品を上映します。



「ゆきははなであるー新野の雪まつり」

特別企画

ソビエト映画60年の歴史を、エイゼンシュテインをはじめとするソビエト映画の巨匠達の作品で振り返る。

ロシア ソビエト 映画特集

エイゼンシュテインからソクーロフまで

会期:平成15年12月10日(水)~
12月23日(火・祝) 休館日・休映日除く

観覧料:600円(大人)500円(大学生・高校生)400円(中学生・小学生)
定員制・各回入替制。チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
福岡市在住の障害者の方、及び福岡市在住の65才以上の方は300円。
(手帳の提示が必要です。)



「孤独な声」

今年はサントペテルブルグ(旧レニングラード)建都300周年にあたり、プーチン大統領の故郷ということもあり、ロシアでは様々な事業が催されています。「ロシアにおける日本年」という位置付けもされており、映画も日本映画の名作が多数上映されています。またこれにあわせて日本でも「ロシア芸術祭」などが行われています。シネラではこれを機にロシア・ソビエト映画の歴史を振り返ります。映画黎明期に世界映画史に残る金字塔を打ち立てたエイゼンシュテインを初めとして、ドヴジェンコ、ブドフキンの三大巨匠から、パラジャーノフ、ミハルコフ、タルコフスキーといった絢爛たる巨匠たち、そして現代ロシアにおけるエイゼンシュテインの後継者たるソクーロフまで、ロシアの大地のごとき豊かな映画史を振り返ります。

祭りの ドキュメンタリー

会期:平成15年12月4日(木)~12月7日(日)

観覧料:500円(大人)400円(大学生・高校生)300円(中学生・小学生)
定員制・各回入替制。チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
福岡市在住の障害者の方は無料。福岡市在住の65才以上の方は半額。
(手帳の提示が必要です。)

早池峰の賦

12月4日(木)14:00 / 12月7日(日)14:00



信仰の山として知られている岩手県北上高地の主峰・早池峰山の山麓に住む人々の生活を捉えたドキュメンタリー映画。四季の移ろうまに過ぎてゆく素朴で厳しい暮らし、早池峰山の修験者によって伝えられたという山伏神楽が、村人の山に対する信仰心とともに生き続けている姿を追い、日本人の信仰とは何かを考える。

1982年/16ミリ/カラー/184分/監督:羽田澄子

母

12月11日(木)14:00 / 12月13日(土)11:00



「戦艦ポチョムキン」と並び称されるソビエト映画サイレント期の代表的傑作。ゴーリキーの原作を大胆に映画化した作品で、文芸作品の優れた映画化と評されている。またモスクワ芸術座の名優、パラノフスカヤ等を起用しリアルな「映画演劇」を創出している。本作はもともとはサイレント映画であるが、今回は68年にモスフィルムにより作成されたサウンド版で上映。

1926年/35ミリ/モノクロ/サウンド版/90分/日本語字幕付き/
監督:フェヴォロド・ブドフキン/出演:ヴェーラ・パラノフスカヤ、ニコライ・バターロフ

大地

12月10日(水)19:00 / 12月14日(日)11:00



エイゼンシュテイン、ブドフキンと並びソビエト映画三大巨匠と評されるドヴジェンコ監督の代表作。農業集団化が進む農村を舞台に、社会主義的なシステムを目指す若者と、これを阻もうとする富農との闘争を描いた作品。革命のロマンチズム、絵画的な映像美にあふれ、年を経るにつれ高く評価されるようになった。本作はもともとはサイレント映画であるが、今回は71年にオフチニコフの音楽を加えて作られたサウンド版で上映。

1930年/35ミリ/モノクロ/サウンド版/90分/日本語字幕付き/
監督:アレクサンドル・ドヴジェンコ/出演:ステパン・シュクラート、セミヨン・スワンシェンコ

アレクサンドル・ネフスキー

12月12日(金)14:00 / 12月13日(土)17:00



32年にアメリカから帰国したエイゼンシュテインが9年ぶりに完成させた作品で、エイゼンシュテイン初のトーキー作品。13世紀に外敵の侵略からロシアを守った民族的英雄アレクサンドル・ネフスキー公爵を描いた作品。台頭するファシズムの中で、愛国的な映画が求められた時代にマッチした作品であるが、エイゼンシュテインの「視聴覚モンターージュ」が実践された作品でもある。

1938年/35ミリ/モノクロ/108分/日本語字幕付き/
監督:セルゲイ・エイゼンシュテイン/出演:ニコライ・チェルカーソフ、ニコライ・オフロブコフ

石の花

12月11日(木)19:00 / 12月14日(日)17:00



本作はソビエト映画初のカラー長編映画であり、映像の魔術師と呼ばれたアレクサンドル・プトゥシコ監督の、幻想と詩情あふれる美しい映像が注目を集めた。一年に一度咲くという「石の花」を見たいと願う孔雀石細工を作る若者の物語。原作はウラル出身の作家パーヴェル・バジョフが故郷の伝説や民話を元にして書いたものであり、本作にも脚色として参加している。

1946年/35ミリ/カラー/80分/日本語字幕付き/
監督:アレクサンドル・プトゥシコ/出演:ウラジーミル・ドルージニコフ、タマラ・マカーロワ

戦艦ポチョムキン

12月10日(水)14:00 / 12月13日(土)14:00



エイゼンシュテインの名前を不滅のものにした、世界映画史上に残る古典的名作。第一次ロシア革命20周年記念として政府より製作を委託されたエイゼンシュテインは、革命の全貌を記した長大なシナリオから、ポチョムキン号の反乱事件を映画化した。オデッサの階段シーンなどの名シーンがよく知られている。もともとはサイレント映画であるが、今回は76年にショスタコーヴィチの音楽をつけたサウンド版で上映。

1925年/35ミリ/モノクロ/サウンド版/75分/日本語字幕付き/監督:セルゲイ・エイゼンシュテイン/出演:アレクサンドル・アントーノフ、ウラジーミル・パルスキー

今回上映する作品は日本各地の祭りを記録したドキュメンタリーの特集です。野田真吉監督の長野県最南端の南信濃地方に残された民俗神事芸能三部作「冬の夜の神々の宴—遠山の霜月祭」、「ゆきははなである—新野の雪まつり」、「生者と死者のかよい路—新野の盆踊り・神送りの行事」や地元太宰府天満宮の「鬼すべ」など6作品を上映します。

12月4日(木)19:00 / 12月6日(土)11:00



**冬の夜の神々の宴
—遠山の霜月祭**

1970年/16ミリ/モノクロ/42分/監督:野田真吉



**生者と死者のかよい路
—新野の盆踊り・神送りの行事**

1991年/16ミリ/36分/モノクロ/監督:野田真吉

「冬の夜の神々の宴—遠山の霜月祭」は、長野県下伊那郡に伝承されている神事芸能「霜月祭」のドキュメンタリー。山間の小さなほこらに参集した村人は、湯をたぎらす大釜のまわりで、様々な仮面を身につけ、舞い、踊る。霜月祭は遠山一族の死霊になりかわることで、一族の恨みをとりはらい、無病息災を祈願するものである。
「生者と死者のかよい路」は、長野県下伊那郡新野(にいの)で行われている民俗行事「新野の盆あどり」の最終行事「神送りの行事」を通じて、目に見えないはずの祖霊と町の人との交流を描いたものである。盆あどりは三日間昼夜を徹して踊られる。8月17日が明けると東の空の彼方に送る「神送りの行事」が神仏習合の修験道の行者によって行われる。

ゆきははなである—新野の雪まつり

12月5日(金)14:00 / 12月6日(土)14:00



長野県下伊那郡で一月に行われる「新野の雪まつり」を撮影したもので、この神事の一部始終を撮るため、監督の野田真吉は五年に渡って新野に通いつめた。古代の習俗を濃厚に残した貴重なまつりの記録である。仮面と衣装を身にまとった村人が次々に現れ、神の化身として見事な舞を舞う。古代の田楽の面影を伝える古式ゆかしい神事芸能が延々と続けられる。

1980年/16ミリ/モノクロ/130分/監督:野田真吉

12月5日(金)19:00 / 12月7日(日)11:00



鬼すべ

1983年/16ミリ/カラー/58分/監督:野崎健輔

**照葉樹林での山の祭り
—九州中央山地の神楽—**

1997年/16ミリ/カラー/39分/監督:下坂利春

「鬼すべ」は福岡県の太宰府天満宮で古くから行われている祭「鬼すべ」の詳細を丹念に記録した地元・福岡のRKB映画社の製作によるドキュメンタリー。
「照葉樹林での山の祭り—九州中央山地の神楽—」は九州山地に広がる照葉樹林帯に点在する神社に伝わる様々な神楽を紹介した作品。いずれも無形民俗文化を後世に伝える貴重な映像である。

誓いの休暇

12月12日(金)19:00 / 12月14日(日)14:00



戦場での勲功により17才の兵士アリョーシャは6日間の休暇をもらい、母のもとに帰る帰路につく。しかしその途中、妻の元に帰る負傷兵を助けたり、戦友に頼まれた用事を済ましているうちに日々は過ぎていく。そして軍用列車の中で少女シュエーラとの出会い。端正な映像美とあふれる抒情、戦争という現実の中に描かれる人間の真実。あまりにも有名なソビエト映画の名作である。

1959年/35ミリ/モノクロ/90分/日本語字幕付き/
監督:グリゴリー・チュフライ/出演:ウラジーミル・イワシコフ、ジャンナ・プロホレンコ

道中の点検

12月18日(木)19:00 / 12月21日(日)11:00



独ソ戦争を背景にした作品で、やむをえずドイツ軍に協力したソビエト軍伍長が、何とか再び祖国の兵士として認められたいと死闘する物語。製作当時は公開されず、ゴルバチョフ大統領による改革により製作後15年たって公開された文化面における改革の象徴となった作品。歯切れの良いドキュメンタリータッチの演出によるサスペンスドラマで、ゲルマン監督の才能を雄弁に物語る。

1971年/35ミリ/モノクロ/97分/日本語字幕付き/
監督:アレクセイ・ゲルマン/出演:ロラン・ブイコフ、ウラジーミル・ザマンスキー

一年の九日

12月17日(水)14:00 / 12月20日(土)17:00



60年代、シベリアの原子力研究所に働く男女3人の愛と友情の物語で、一年のうちの9日間に焦点を絞って描いた作品。ロム監督はタルコフスキー、アンドレイ・コンチャロフスキー、グリゴリー・チュフライ等の監督を育てた監督として知られている。本作では登場人物の内面の動きを描くため、それまでのソビエト映画とは違う新しい表現スタイルの試みがなされている。

1961年/35ミリ/モノクロ/108分/日本語字幕付き/
監督:ミハイール・ロム/出演:アレクセイ・バターロフ、インノケンティ・スモクツォフスキー

鏡

12月19日(金)14:00 / 12月21日(日)14:00



「惑星ソラリス」や「ノスタルジア」等の作品が日本でも公開されたタルコフスキー監督作品。本作は主人公が母親や別れた妻子との関係をモノローグスタイルで語るという内容で、タルコフスキー監督の自伝的色彩の濃いものとなっている。監督独特の「水」「火」などの自然現象が美しく幻想的なイメージで描かれ、過去と現在を巧みに交差させて主人公の深層心理を浮き彫りにしていく。

1975年/35ミリ/カラー/110分/日本語字幕付き/
監督:アンドレイ・タルコフスキー/出演:マルガリータ・テレホワ、オレーグ・ヤンコフスキー

火の馬

12月17日(水)19:00 / 12月20日(土)14:00



大胆で斬新な映像感覚、鮮やかな色彩と民族色豊かな表現、それまでのソビエト映画では想像もできなかった耽美的な映像により、パラジャーノフ監督はベレストロイカ以後再評価された。ウクライナの南、カルパチア山地に何世代にもわたっていがみ合う二つの一族があった。しかし両家の子供は幼なじみで、大人になって次第に愛し合うようになる。「ロミオとジュリエット」風の悲恋物語。

1964年/35ミリ/カラー/95分/日本語字幕付き/
監督:セルゲイ・パラジャーノフ/出演:イワン・ミコライチュク、ラリーサ・カードニチコワ

愛の奴隷

12月19日(金)19:00 / 12月23日(火・祝)14:00



革命直後の南ロシア。人気女優オリガは革命とは無縁の生活を送り、映画撮影を続けていた。そんな彼女がカメラマンとの悲恋を通じて、時代に翻弄されながらも新しい愛と人生に目覚めていく。滅びゆく階級の残照を緻密な演出で描き、世界各国で絶賛された作品。監督の兄で、「暴走機関車」の監督アンドレイ・コンチャロフスキーが脚本を担当している。

1976年/35ミリ/カラー/93分/日本語字幕付き/
監督:ニキータ・ミハルコフ/出演:エレナ・ソロヴェイ、ロジオン・ナハトフ

ピロスマニ

12月18日(木)14:00 / 12月21日(日)17:00



この映画は中央アジアのグルジアに生まれた天才画家ニコ・ピロスマニ(1862-1918)の生涯を描いた映像詩である。60年の流浪の生涯を送り、清廉に生きて無名のまま死んだピロスマニを、シェンゲラーヤ監督は憧れにも似た感情を込めて描き出す。そのプリミティブな映像はピロスマニの画風でもあり、グルジアの風土や民族の心までも伝えている。

1969年/35ミリ/カラー/87分/日本語字幕付き/
監督:ゲオルギー・シェンゲラーヤ/出演:アフタンジル・ワラジ、アッラ・ミンチン

孤独な声

12月20日(土)11:00 / 12月23日(火・祝)11:00



「エルミタージュ美術館」など、現代ロシア映画を代表する監督として活躍するソクーロフ監督作品。本作はソクーロフ監督が卒業制作として完成した作品だが、公開はおろかその存在さえ認められていなかったもので、ベレストロイカ以後公開されるようになった。内戦の時代に苛酷な生活に苦しみながらも、精神の高潔さを失わずに生きようとした人々の愛と孤独を、独特の実験的な作風で描いている。

1978年/35ミリ/カラー/86分/日本語字幕付き/
監督:アレクサンドル・ソクーロフ/出演:タチャーナ・ゴリャチョフ、アンドレイ・グラドフ

12月 上映スケジュール

1	月	休館日
2	火	休館日
3	水	休映日
4	木	祭りのドキュメンタリー 【14:00】早池峰の賦 【19:00】冬の夜の神々の宴/生者と死者のかよい路
5	金	【14:00】ゆきははなである 【19:00】鬼すべ/照葉樹林での山の祭り
6	土	【11:00】冬の夜の神々の宴/生者と死者のかよい路 【14:00】ゆきははなである
7	日	【11:00】鬼すべ/照葉樹林での山の祭り 【14:00】早池峰の賦
8	月	休館日
9	火	休映日
10	水	【14:00】戦艦ボチヨムキン 【19:00】大地
11	木	【14:00】母 【19:00】石の花
12	金	【14:00】アレクサンドル・ネフスキー 【19:00】誓いの休暇
13	土	【11:00】母 【14:00】戦艦ボチヨムキン 【17:00】アレクサンドル・ネフスキー
14	日	【11:00】大地 【14:00】誓いの休暇 【17:00】石の花
15	月	休館日
16	火	休映日
17	水	【14:00】一年の九日 【19:00】火の馬
18	木	【14:00】ピロスマニ 【19:00】道中の点検
19	金	【14:00】鏡 【19:00】愛の奴隷
20	土	【11:00】孤独な声 【14:00】火の馬 【17:00】一年の九日
21	日	【11:00】道中の点検 【14:00】鏡 【17:00】ピロスマニ
22	月	休館日
23	火祝	【11:00】孤独な声 【14:00】愛の奴隷
24	水	休映日
25	木	休映日
26	金	休映日
27	土	休映日
28	日	↓
2004	1/5	年 末 年 始 の 休 館 日

アーカイヴ News

映画の数学

35mmの映画フィルムは、横幅が35mmあるという意味ですが、では1駒の縦の長さは何mmあると思いますか？ 答えは19mmです。映画は1秒で24駒進みますから、35mmのフィルムは1秒間に19×24=456mm進むことになります。10秒で4m56cm、1分で273m6cm、1時間で1641m60cmとなります。35mmのフィルムは時速約1.6kmで進んでいるわけです。

ずいぶんのろのろと進んでいるように思われるでしょうが、実はこれは大変な高速運動です。というのも、1駒単位で考えるなら、1時間で24×60×60=86400駒進むことになるからです。ですから映写機は物凄い速度、見ているだけで恐くなるような速度で回転運動を続けています。今の映写機は安全装置が付いているから、フィルムが映写中に切れたらストップするようになっていますが、かつては違いました。フィルムが切れると、巻き取れなくなったフィルムがとんでもない勢いで飛び出してくるのです。あっという間に映写室はフィルムの山になりました。

2時間の映画を見たとき。計算では、フィルムの長さは3283m20cmとなります。フィルムは2時間の映画が終わるまでにおよそ3.3km進んでいる。小学生の遠足ぐらいの距離です。これをちょっとした散歩と見るか、気の遠くなる

ような長旅と見るか。私はやはり後者だと思います。たった35mm×19mmの、一寸法師みたいな大きさのフィルムが3.3kmも旅をしているのだから。そして、旅の途中には危険なこともたくさんあります。何かに引っかかって裂けるかもしれない。大きな傷がつくかもしれない。映写技師はそれをはらはらしながら見守っています。

ところで、フィルムの長さの単位は、実はメートルよりもフィートに換算するのが通例です。1フィート(正確にはfoot)が16駒です。16×19=304mm。換算式では、1foot=30.48cmですから、若干誤差はありますが計算は合います。footというのは人間の足の大きさを意味していますが、30cmというのはちょっと大きすぎるとも思えます。では靴の大きさと考えたらどうでしょう。私は25.5cmの靴を履いています。その靴の外寸を図ってみたら、だいたい30cmぐらいある。そこからイメージするなら、2時間の映画が終わるまでに(120×24×60)÷16=10800フィート、つまり10800足の靴が縦に並んでいることになる。5400人分です。私の靴は3000円ぐらいなので、3000×5400=16200000。映画が撮れる! 1620万円で、みなさんならどんな映画を撮りますか?

松本圭二(映像管理員)



インフォメーション

シネラニュース送付のご案内

定期購読ご希望の方に毎月シネラNEWSをお届けしております。購読を希望される方は、平成16年1月号～平成16年4月号(3月発行)までの郵便切手(90円×4ヶ月)を同封の上、下記宛先へお申しください。

宛先:〒814-0001福岡市早良区百道浜3-7-1 福岡市総合図書館 映像資料課

ビデオ編集技術研究室のご案内

ビデオ研究室では、家庭で撮影されたビデオ(Hi8・DV)や各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用3時間迄)詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

映像ホール利用申し込みについて

映像ホール・シネラで自主上映(非営利に限る)を希望される方は、下記のとおり利用申込みの受付を行いますのでお申し込みください。

利用申込対象期間:平成16年6月～同年11月分まで

別途配布の申込用紙に対象日を掲載しています。

申込受付期間:平成15年11月30日(日)～12月11日(木)必着

休館日を除く

抽選日:平成15年12月13日(土)午前11時より

抽選会場:福岡市総合図書館・3階第2応接室

利用申込用紙:福岡市総合図書館で配布中の申込用紙をお出ください。

お問い合わせ:福岡市総合図書館映像資料課(事業係)

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号 TEL 092-852-0608



交通アクセス

当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。

地下鉄: 西新駅または藤崎駅から徒歩15分

西鉄バス: 天神～都市高速経由～福岡タワー南口(所要時間:昼間で約20分) 博多駅～都市高速経由～福岡タワー南口(所要時間:昼間で約25分)

福岡タワー南口バス停から徒歩3分

いずれも、昼間は10～15分間隔で運行されていますので大変便利です。お近くのバス停からのご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話:733-3333)に直接お問い合わせください。

公共交通機関ご利用のお願い

駐車場は図書館利用者の共用であり、映像ホール専用の駐車場はありません。駐車スペースに限りがあり、常時混雑しておりますので長時間の駐車はご遠慮いただいております。できるだけ公共交通機関のご利用をお願いいたします。土日祝日のご利用や1日に複数回の映画をご覧いただく場合などは、特にご協力をいただきますようお願いいたします。

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là 福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609
福岡市総合図書館ホームページアドレス <http://toshokan.city.fukuoka.jp/>

デザイン/株式会社ホワイトスペース 印刷/株式会社修文堂印刷